

私を育てた
あの時代、あの出会い

第14回

生徒を、学校を元気にする術を その言葉と行動に学んだ

愛知県 岡崎市立翔南中学校校長 加藤政幸 KATO MASAYUKI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、加藤校長が語る。

生徒が自分をどう思っているか
それを知ることが生徒理解

私は大久保慎一先生と2度、同じ学校に勤務し、先生から教師としての全てを教わりました。

初めての出会いは私の初任校です。大久保先生は体育、私は数学と担当教科は違いましたが、当時32歳の大久保先生は、同じ年に赴任した新米教師を気に掛けてくれたのでしょう。他の先生も交えてよく飲みに連れて行ってくれました。店は必ず学区内。「教師が学区内で物を買ひ、食べて飲むことで地域とのつながりが深ま

り、学校を応援してくれるようになる」という考えからです。そして、店で、授業の考え方、部活動の意味などさまざまな話をしてくれました。

中でも学んだのは、生徒と向き合う姿勢です。先生は礼儀や態度にとっても厳しかったのですが、生徒から厚い信頼がありました。気になることがあればすぐに家庭訪問をし、生徒をちよつと連れ出してじっくり話をする。自分の給食の配膳は学級内で疎まれていたような生徒に1年間任せ、部活動ではレギュラー以外の生徒ほどよく声を掛けていました。私が生徒指導で悩んでいると、先



かとう・まさゆき 専門教科は数学。岡崎市立北中学校赴任後、岡崎市小中学校教職員組合執行委員長を2年間務める。赴任先の各校で野球部の顧問を務め、翔南中学校でも顧問に名を連ねる。

1979 (昭和54)
岡崎市立竜海中学校
に新採で赴任。
大久保慎一先生と
出会う

1987 (昭和62)
岡崎市立岩津中学校
に赴任

1993 (平成5)
岡崎市立矢作北中学校
に赴任

1999 (平成11)
岡崎市立北中学校
に赴任。
校務主任を務める。
同年、大久保先生も
校長として赴任

北中学校での日々や、
大久保先生の
「校長メモ」を
それぞれ冊子にまとめた

2004 (平成16)
岡崎市立矢作中学校
に教頭として赴任

2008 (平成20)
岡崎市立城南小学校
に教頭として赴任。
翌年、校長に昇任

2011 (平成23)
愛知県教育委員会
西三河教育事務所
に勤務

2013 (平成25)
新設校の
岡崎市立翔南中学校に
初代校長として赴任

生はこう言いました。「生徒を外から見てどういう子かを判断するのはなく、生徒が自分自身をどのよう
に思っているのかを、教師が分かっ
ていることが真の生徒理解だ」。

生徒の見えない部分をどうすれば
理解できるのか。私は生徒の生活
ノートを毎日読み、生徒が2ページ
書いてきたら、私も同じ分、赤ペン
で思いを書きました。自分が心を開
かなければ生徒も心を開かないと思
い、学級通信に自分の中学時代を綴
りました。そうすることで生徒を本
当に理解できたかどうかは分かりま
せん。でも、生活ノートが年3、4
冊に上るほどやりとりをした生徒が
いたのは、そうした努力を感じてく
れたからだと思うのです。

毎日の「校長メモ」に 指針と勇気をもたらした

2度目の出会いは、大久保先生が
校長、私が校務主任としてやはり同
じ年に赴任した学校です。いわゆる
荒れの状態にあり、立て直しのため
教職員が半数入れ替わった年でした。

第1回の職員会で、大久保先生は
「やりましょう。やってください。
全ての責任は私が取ります」「これ

だけの仲間が集まって、出来ないこ
とはない。出来ないのは相手が強い
からではなく、私たちの努力が足り
ないと思いませんか」と言われまし
た。その言葉に職員室の空気は明ら
かに変わりました。そして、先生は
自ら行動で示されました。その1つ
は文化祭でのソーランです。生徒に
学校への誇りを持たせたいと提案。
自ら先進校を視察し、専門家を講師
に招きました。生徒は少しずつ真剣
に取り組むようになり、ついには地
元の祭りにも参加。地域の人々から
温かい拍手をいただいたのです。

また、大久保先生は学校での出来
事を通して、教育の本質、心構え、
あるべき教師像を厳しく、時にユー
モアを交えて伝える「校長メモ」を
毎日配られました。それを読み、実
践することは日々の研修となりました
。メモは先生方の努力が認められ
る場でもありました。大久保先生は
朝6時に学校に来て、掃除をしながら
校内を点検されていました。腰
を痛めたため、私が一緒に回るこ
にしました。そのことを「2人で学
校のことを話しながら回っている
と、自然と勇気が出る。同志とい
ものだろう」と記されたのです。

「学校が一枚岩になることが大切
だ」とよく言いますが、この時まさ
に全教職員が校長を中心に1つとな
り、生徒と向き合っていたのです。

私は今年、新設校の初代校長に着
任しました。生徒が喜んで来てくれ
る学校、先生が働きたくなる学校、
地域の人から応援される学校にする
ことが目標です。開校式ではうれし
いことがありました。「来校者は皆、
校舎や校庭をすごいと褒めてくれま
す。いつか中身を褒められるように

したいですね」と言うと、生徒は大
きな声で「はい」と返事してくれ
たのです。頼もしく感じました。そ
して、私も教職員の初顔合わせの日
から毎日、「校長つうしん」を配付
しています。「通信」と「通心」の意
味を込めて「つうしん」としました。

1年間で全教職員を登場させるつも
りです。生徒と直接向き合うのは現
場の先生方です。その先生の成長を
支えるのが私の役目と心得、新しい
学校づくりに邁進していきます。

「生徒を知ろうとする教師の努力を 生徒は感じ取り、心を開く」

